

曲目解説

●津軽じょんがら節

青森県の津軽地方に伝わる民謡（じょんから節との表現もあり）で、津軽三味線の伴奏で歌われますが、三味線のみでの演奏（曲弾き）も広く行われています。

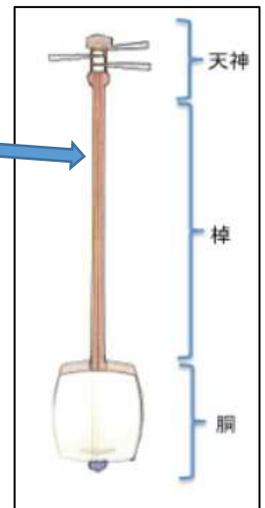


歌われる場合の歌詞の冒頭は
ハァー お国自慢の じょんから節よ
若衆唄えば 主人の囃し
娘踊れば 稲穂も踊る
（ソリャ ハイサ ハイヨー）
となります。

◎そもそも津軽三味線とは？

三味線には棹（さお）の太さを基準に3種類あります。

1. 細棹 25. 4mm 長唄や小唄などを弾く
 2. 中棹 26. 6mm 一般的に地唄や一般民謡などを弾く
 3. 太棹 27. 8mm 義太夫や浪曲などを弾く、
津軽三味線はこの分類にはいる
- 数字で見ると、わずかな違いですが、実際に持ってみると大きな差が感じられるとのこと。



胴に使われている皮の違い

細棹や中棹	猫の皮
	今は聞かれなくなった言い回し
	“風が吹くと桶屋が儲かる”に登場していました。
津軽三味線	犬の皮

撥（ばち）の違い

細棹	大きな木や象牙の撥
津軽三味線	小ぶりの鼈甲（べっこう ウミガメの甲羅）の撥



弦

三味線の名前の通り、弦は3本
現在の材料は 絹、テトロン、ナイロン
太さは3本それぞれ違います。低音弦、中音弦、高音弦という感覚でしょうか。

●本調子：三味線の基本的な調弦法。およびこの調弦で演奏すること。



●リミックス (ReMix) : 派生的な用法として、新しい音を足したりアレンジを変えた演奏を追加したり、オリジナルバージョンの素材を一部や大部分を抜くなど、積極的に新しいバージョンを作成する。 ほぼ“編曲”という意味。